

2009 年度後期授業アンケート集計結果について（全体的特徴）

【属性】（設問 1～設問 4）

アンケートに答えた学生の累計数は、経済学部経済学科 841 名（22.9%）、同コミュニティ福祉政策学科 108 名（但し 3 年生以上 2.9%）、同臨床福祉コミュニティ学科 168 名（但し 1,2 年生のみ、4.6%）、経営学部スポーツ経営学科 1,789 名（但し 4 年生以下、48.7%）、同ビジネス戦略学科 11 名（但し 5 年生以上、0.3%）、同経営情報学科 172 名（但し 3 年生以上、4.7%）、同情報メディア学科 552 名（但し 1,2 年生のみ、15.0%）、科目等履修生・交換留学生・聴講生 29 名（0.8%）である。

学生の学年別分布は、1 年 42.8%、2 年 30.1%、3 年 18.6%、4 年 6.5%、5 年以上 1.4%、学年なし（科目等履修生など）0.5%であった。

$\frac{\text{延べ回答者数}}{\text{延べ受講者数}} = \text{全体の回答率}$ $3,833 \quad / \quad 7,104 \quad = \quad 54.0\%$
--

【学習意欲】

まず、「出席率」のなかの、まず欠席回数（設問 5）では、「欠席回数 0 回」が 41.5%、「欠席回数 1～2 回」が 40.1%、「3～4 回」が 16.4%、「5 回以上」が 2.0%であった。その欠席理由（設問 6）については、「病気等」39.7%、「寝坊」33.9%、「就職活動」11.8%で、「授業がつまらない」と答えた学生が昨年度後期（以下前回）8.1%から今回 6.1%にやや減ってきている。前回のアンケートとの違いは、「欠席回数 0 回」がやや減り「欠席回数 1～2 回」がその分やや増えている点と欠席理由で「病気等」と回答した学生が前回の 34.4%から 39.7%に増えている点は、2009 年度後期に大流行した新型インフルエンザによる欠席が多かったためと思われる。また欠席理由で「その他」を選んだ理由を記述式で見ると、アルバイト、自動車免許取得など自己都合と思われる理由も見られた。出席率の高い（「欠席回数 0 回」「1～2 回」と回答）学科は、臨床福祉コミュニティ学科（89.5%）スポーツ経営学科（84.9%）、情報メディア学科（84.4%）であった。

「授業参加の目的・動機」では、「時間割を埋めるため」25.1%（前回 21.6%）、「必須」24.3%（前回 30.9%）、「シラバスを見て興味が沸いた」20.5%（前回 18.5%）、「資格取得に必要なだから」13.9%（前回 14.5%）、「先輩や友人からすすめられた」16.2%（前回 14.4%）の順で「時間割を埋めるため」「必須」の消極的な受講動機が 50%を占める結果となった。授業参加に際して（設問 9）は、「シラバスを読んで興味をもった」37.2%に対して、「シラバスの内容を見ていない」で参加している学生の割合が 51.7%である。シラバスの内容を見ていない学生の割合は、前回は 58.0%と約 5.3%減少している。シラバスで参考になった点で記入したもの（記述式②）を見ると、「授業の進め方や成績のつけ方について、詳しく書いてあり参考になった」、「授業の内容が細かく書いてあり、興味を持った科目を選ぶことができた」、「授業内容の確認ができた」という回答が多い。またシラバスで改善して欲しいこと（記述式②）で記入したものを見ると、「もっと詳しく書いてほしい」、「シラバス

だけでは不十分なので、一週間は授業を選ぶ期間がほしい」と言った要望も見られた。

「意欲的取り組み」（設問 8）については、「復習を全くしたことがない」が 38.5%と復習を全くしない学生の割合は前回は 42.2%と変わらず高い。全く復習したことがないと回答した学生の割合が高い学科は、コミュニティ福祉政策学科（48.1%）、スポーツ経営学科（43.4%）経済学科（40.7%）であった。

【授業評価】

教科書の理解に関して（設問 10）は、「十分理解できる内容」が 32.5%、「理解できる」が 51.7%であり、教科書を指定している授業の 8 割以上の学生が教科書は適切であったと回答している。

授業の創意工夫（設問 11、設問 12）について、まず補助教材（設問 11）については、「非常に役に立った」と「役に立った」と答えた学生は 73.6%であった。また板書（設問 12）については、「非常に分かりやすい」「分かりやすい」が前回の 66.7%から今回 67.1%に増加した。「分かりにくい」と答える理由を記述させた（記述式⑤）ところによれば、細かく書きすぎで見にくい、字が汚い、途中から書き加えられるのでノートに書くスペースがなく板書しづらい、ノートに書く前に黒板を消してしまう、などが相当指摘されている。板書そのものではないが、大事なことは口頭で述べるだけでなく書いて欲しいとの意見も見られる。教員の話し方・説明（設問 13）については、「分かりやすい」と答えた学生は 64.1%で、前回の 58.4%に対し、5.7 ポイント増加している。「分かりにくい」と答える理由を記述させた（記述式⑥）ところ、説明が速く理解出来ない時があった、話し方が聞き取りにくい、板書が読みづらいなどが指摘された。宿題・レポートの難易度（設問 14）については、「適切である」が 50.0%、「やさしすぎる」が 2.6%と 5 割以上の学生が宿題・レポートは適切であったと回答している。また、授業の難易度（設問 15）に関連して、授業について「十分理解できる」と「理解できる」と答えた学生は 79.2%（前回は 77.9%）と高く、補助教材を含む授業についての創意工夫の効果も影響しているのかどうかは断定できないが、8 割近くの学生が理解しやすいと回答している。理解度が高い（「十分に理解できる」「理解できる」と回答）学科は、情報メディア学科（86.3%）、臨床福祉コミュニティ学科（86%）経営情報学科（84.9%）、コミュニティ福祉政策学科（80.4%）であった。

【授業満足度】

授業に出席して内容に満足できたかどうか（設問 16）については、69.9%（前回は 67.9%）の学生が満足したと答えている。満足度が高い（「非常に満足」「まあまあ満足」と回答）学科は、経営情報学科（88.1%）、臨床福祉コミュニティ学科（81.8%）、情報メディア学科（78%）コミュニティ福祉政策学科（74.3%）であった。大変良かったと思われる点（記述式⑧）では、教科書で重要な所は強調して分かりやすく説明して頂けた。という意見があった。